

令和7年度 学校評価「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな～」

学校教育目標：児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す

令和7年度 重点目標

- (1) 「なぜ」に基づく対話を通じた安全・安心な学校づくり
- (2) いのちと人権を大切に信頼される学校づくり
- (3) 情報発信・情報共有による開かれた学校づくり
- (4) 個々のニーズに応じた教育及び社会的自立に向けたキャリア教育の充実
- (5) 校務や教育におけるICT機器の利活用
- (6) 同僚性の醸成及びチームの連携体制の構築

	学部・分掌目標	具体的な取組み
小学部 重点目標 (1)(2)(4)	①キャリア教育における挨拶や人との関わりを重視し、友達や教師に対する、実態に合った挨拶や返事、誘い方や要求の方法を身に付けられるような指導に取り組む。 ②キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、決められた仕事(役割活動)を最後までやり切ったり、自ら分かって取り組んだりできるように家庭と連携をしながら指導支援をする。	①挨拶は朝・終わりの会で挨拶や呼名に対し返事をする場面を設定し、継続的に取り組む。挨拶や返事、声のかけ方や肩を叩くなど、児童の実態に応じた方法を提示するために教師間や児童と相談しながら指導支援する。 ②児童の実態に応じた司会や当番、係活動などの役割活動を、教師間や本人、家庭と相談して設定し、教師と一緒にしたり、繰り返し取り組んだりして活動の理解と定着ができるように指導支援する。
中学部 重点目標 (1)(2)(4)	①キャリア発達における挨拶や他者との関係づくりを重視し、状況に応じた挨拶や適切な言葉遣いを身に付け、他者と円滑な関係を築けるよう指導支援をする。 ②キャリア発達における役割の理解と分担を重視し、学校生活の中で自分の役割を果たそうとする意欲や習慣を身に付けるよう指導支援をする。	①朝・終わりの会や各授業等で適切な挨拶をする場面を設定し繰り返し取り組む。「ありがとう」「手伝ってください」など言葉、身振り、カード等個に応じた表現方法を工夫し、学校生活の様々な場面で伝えられるよう指導支援していく。 ②学校生活において、個の実態に応じた係活動や仕事を設定し、取組みやすいように支援方法を工夫するなどして、経験を積む機会を設ける。自己肯定感を高められるように、日々取組みを評価し認めていく。
高等部 重点目標 (1)(2)(4)	①人とのコミュニケーションを大切に、場に応じた挨拶、返事、マナーなどを含めた人との接し方を身に付けられるよう指導支援を行う。 ②社会的自立を目指し、責任をもって、主体的に自分の役割を果たせるよう指導支援を行う。	①課題学習、SST、HRなどの時間を利用し、場に応じた挨拶や返事の仕方などを繰り返し伝え、練習する。語先後礼の挨拶、適切な声の大きさでの返事、身振りで応答、他人との距離感、マナーなど、個々の課題に応じた目標を設定し、習慣化するよう、教師間で協同して指導支援を行う。 ②朝の会、終わりの会、係活動、委員会活動などにおいて、個別の役割を設定する。自身の役割を理解して自ら取り組めるよう、個に応じた支援方法を工夫する。特別活動や行事などの役割において、学校やクラスの代表として主体的に取り組めるよう、生徒との対話を大切に、生徒達が意見を出し合い、進めていく場を設定する。
分教室 重点目標 (2)(3)(4)	①生き生きとしたよりよい社会参加を行うために、生徒の可能性を引き出すような、様々な実践を実施する。 ②分教室で行われている交流及び共同学習をはじめとする様々な教育活動について発信し、分教室の教育内容・実績について周知する。	①交流及び共同学習、自立活動、各教科などの日常の学びをより効果的なものにするために、生徒にとって新しいことにチャレンジする機会を確保するとともに、家庭との連携を密にする。 ②学校ウェブサイトでの発信、外部向け学校説明会の充実、校外で行われる説明会への参加など、情報発信に努める。
訪問教育 重点目標 (1)～(6)	①生活リズムを整え、生きる意欲を高める力を育むために、家庭、医療、福祉との連携を図る。 ②定期的なスクーリングの実施や該当学年と同課題の設定、タブレット映像での学習交流、校外活動への参加を通し同年代の友達と触れ合う機会を充実させる。	①リハビリを見学して理学療法士からの指導助言を教育活動に活かす。保護者との対話を大切に、安全で安心な教育活動を行う。 ②学部学年の教師と積極的に連携を図り、学習内容の設定をしたり、学校の様子を映像で見たりしながら、同年代の友達や他者と触れ合うことで豊かに生活できるようにする。
総務部 重点目標 (3)	①ホームページなど様々な方法により日々の教育活動を効果的に保護者や地域に発信する。 ②イオン学校展を通して、地域への理解と啓発活動を推進する。	①学校行事や日常の授業などの様子が伝わるブログを掲載するために、HP作成の研修を実施する。 ②各学部の特色が伝わる授業内容や行事の様子を掲載したスライドやチラシを作成し、わかりやすい学校紹介を行う。

<p>教務部</p> <p>重点目標 (4)</p>	<p>①教育課程(カリキュラムなど)の見直しと改善を行う。</p> <p>②授業内容の精選(実施する単元の整理)と3観点を踏まえた評価規準の作成を行う(継続)。</p>	<p>①各種教育課程委員会において、現在の教育課程(カリキュラムなど)の問題点や課題点を整理する。特に学校行事の精選を行う。</p> <p>②各学部で各教科・領域の指導内容(単元)を再確認する。児童生徒の実態に合わせて内容を見直す。高等部においては、指導計画の整理、指導単元の精選、3観点を踏まえた評価規準の例示を盛り込んだ学部確認事項改訂版を作成する。</p>
<p>進路指導部</p> <p>重点目標 (3)(4)</p>	<p>①卒業後の進路を見据えた、事業所情報や進路選択に役立つ情報を発信する。</p> <p>②関係機関と連携し、進路学習に関する学びを充実させる。</p>	<p>①進路通信や保護者対象の進路に関する行事で情報提供すると共に、事業所が主催する企画の案内を配付し、家庭の関心を喚起する。</p> <p>②関係機関の方を招聘したり、企業や事業所からの作業提供を受けたりしながら、進路学習に関する学びの機会を提供する。</p>
<p>生徒指導部</p> <p>重点目標 (1)(2)</p>	<p>①安全・安心な学校づくりに向けて、学校環境の整備に努めるとともに、職員の資質や能力の向上を図る。</p> <p>②児童生徒のいのちと人権を大切にするとともに、児童生徒が楽しく安全に学校生活を送れるような指導、支援が実践できる。</p>	<p>①学校防災危機管理マニュアルに沿って各種避難訓練や対応訓練の実施する。校内設備安全点検は全職員で毎月実施する。</p> <p>②職員研修にて、学校いじめ防止基本方針の周知と児童生徒のいじめを含めた問題行動への対応と連携を確認する。</p>
<p>保健部</p> <p>重点目標 (2)(3)</p>	<p>①児童生徒が自らの健康を主体的に維持・改善できる力を身に付けられるような保健学習を行う。</p> <p>②食に関する全体計画をもとに、安全・安心な学校給食の提供に努め、旬の食材や地場産物を取り入れた献立を通して、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。</p>	<p>①月間保健目標・給食目標の学習を通じて、生活習慣を意識した実践的な健康教育を行い、健康に関する気づきを促す機会を増やす。</p> <p>②食に関する指導を積極的に行い、給食だよりや献立表の一口メモを活用して、日々の給食指導をより充実させる。季節の食材や地場産物を紹介しながら、食文化や食の大切さについて児童生徒に伝えていく。</p>
<p>自活・研究部</p> <p>重点目標 (4)(5)</p>	<p>①校内研修会や学年の研究日、授業見学等を通して、PDCAサイクルを考えた授業作りを共通認識し、「学びあい、ともに伸びる授業づくり」を実践・情報共有を行う。</p> <p>②自立活動研究日の研修内容を情報共有し、日々の指導に活かす。</p>	<p>①児童生徒の「実態」「つきたい力」をふまえて児童生徒に関わる教師が話し合い、授業前後の評価を行うことで一人ひとりに適した支援方法・手だてを模索する。また、「ほめる」ポイントや指導が生活の中でどのように生きるかも確認し、児童生徒の意欲を引き立てる雰囲気をつくる。</p> <p>②自活研究日を設定し、各学部の状況に応じて研修を行う。実践報告で情報共有する。</p>
<p>支援部</p> <p>重点目標 (1)(3)</p>	<p>①児童生徒の理解しやすい環境をつくるために特別支援学校としてのUD化に取り組む。</p> <p>②特別支援学校のセンター的機能を担い、開かれた学校づくりを行う。</p>	<p>①本校の基礎的環境整備について教職員で協議し、整理をする(現在整備できていることと今後整備できそうなこと)。</p> <p>②近隣の学校に校内研修を公開する。</p>
<p>校務運営</p> <p>重点目標 (1)～(6)</p>	<p>①学校教育目標実現に向けて円滑な学校運営を行うために、各部の方針や業務内容を知り、各自の教育活動に反映させることができる。</p> <p>②「チームこやの里」をキーワードに関係者間で対話を重ね、大人・子どもが共に安心できる安全な教育環境を目指す。</p>	<p>①職員会議や職員朝礼を通じ、現在置かれた学校の状況を全教員で情報共有する。一人一人の教員がなすべきことや学校に必要なことを考える機会を設ける。</p> <p>②名前を呼び合い、挨拶を交わすことで信頼関係を築く。人権尊重を基盤とし、互いを認め合い、敬意をもって接する。対話の機会を増やし、教職員間・児童生徒・保護者が協力しやすい雰囲気を作る。</p>